

SAGAMIHARA GREEN

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

★「さがみはらグリーン」は、まち・みどり公社本社（けやき会館内）をはじめ、市内の市立公園や公民館、図書館等に配架しております。

Vol.61 2019.09

URL <http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>

2～3ページ▶

矢澤秀成氏に学ぶ
シクラメンの栽培管理

みどりのボランティア団体紹介
～特定非営利活動法人 相模原こもれび

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて
絶滅危惧種 カワラノギク

写真 ©Hidenaru Yazawa

暮らしを彩るボタニカル・ライフ ～花も葉も楽しむ原種シクラメン～

ガーデンデザイナー
志村みかさん

冬の彩りとして知られるシクラメンは、地中海沿岸地域原産の球根性の多年草で、日本には明治時代にドイツで品種改良された観賞用のシクラメンが輸入されたのが始まりです。その後、国内でも品種改良が進み、20年ほど前には、耐寒性（-5℃程度まで）があり戸外で育てることができるガーデンシクラメンも作出され、冬の花壇に彩りを添えるようになりました。

（写真提供：国営武蔵丘陵森林公園）



‘コラム’（春咲き）



‘ヘデリフォリウム’（秋咲き）



クルクルと巻いた花茎

【原種シクラメン（野生種）の魅力】

‘シクラメン’の語源はギリシャ語のキクロス（「旋回」「らせん」の意）によるものですが、これは、原種シクラメンの花後の花茎がゼンマイのようにくるくると巻くことに由来します。

野性味が魅力の原種シクラメンは20種ほど知られていて、初冬に出回る園芸品種のシクラメンにくらべ、花の咲く時期に違いがあり、「春～初夏咲き」「夏～秋咲き」「冬～早春咲き」の3タイプがあります。

また、原種シクラメンは、葉も美しいのが特長で、丸みのあるもの、とがるもの、変わったところで浅く切れ込むものなどがあります。葉色は深めの緑色で、銀白色の斑が様々な形で入ります。その斑の入った姿が個性的で、花の咲いていない時期でも楽しむことができます。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

公益財団法人 相模原市まち・みどり公社は、地域のために活動する自治会を応援しています。

矢澤秀成氏に学ぶ シクラメンの栽培管理



シクラメン【*Cyclamen persicum*】 サクラソウ科の球根性多年草

初冬から販売されお歳暮などにも使われる大鉢シクラメン。1975年に発売され、布施明さんが歌い大ヒットした「シクラメンのかほり」により、シクラメンの花は多くの皆さんに知られることになりました。

大鉢シクラメンは11月中下旬から販売が始まり、花の少ない冬を美しく彩ってくれます。

【植え替え】

購入した鉢は、まずは用土を確認しましょう

ピートモスなどを主体とした土を使っているものは土が乾きやすいため、購入と同時に一回り大きな鉢に培養土を入れて植え替えましょう。

培養土の配合割合(例)

赤玉土：5 腐葉土：3 ココピート※：2

※ココナツ由来の環境に優しい土壌改良剤



花卉の形状も魅力のひとつ

【日当たり・水やり】

寒さに弱いため、室内の日の当たる窓辺に置き、表面が乾いたら水をやります。小春日和のような暖かい日中には、外に置いたり、窓を開けて優しい外の風に当てるのも良いでしょう。また数日に一度、葉を優しく触ってあげると、ホコリが取り除け、徒長を防いだりします。*

※) ホコリが積ると光合成が妨げられ、必要以上に茎が伸びて、抵抗性も弱まってしまいます。

【追肥】

1月中下旬と3月上中旬頃に薄い液体肥料※を2週間に分けて2回施します。

※例) N-P-K=6-10-5の原液を2000倍に水で薄めます。



矢澤 秀成 氏プロフィール

- やざわ花育種株式会社代表取締役社長。
- 新しい草花や野菜などを開発販売する育種家。
- 全国各地の植物園・公園の監修やヘッドガーデナーとして活躍。最近では、長野県にある1400年の歴史ある善光寺の植栽顧問、全国都市緑化信州フェアのガーデンアドバイザー、静岡県植栽に関する評議委員などを歴任。
- NHK教育「趣味の園芸」、NHK総合「あさイチ」、TOKYO-FMなどの園芸番組の講師をはじめ、全国各地で園芸が楽しくなる講習会や花の講演活動を多数実施。
- 「花のマイスター養成制度」を2003年よりスタートさせ、全国各地の公園で開校。
- 「世界にひとつだけの花」を子供達一人一人に咲かせてもらう、命の大切さの授業「育種寺子屋」を全国各地で実施。

【球根の夏越し(休眠法)】

6月に入ったら水をやらずに雨の当たらない軒下などに置き、完全に休眠させ、球根だけの状態で夏越しさせます。



【植付け(9月)】

9月上旬に鉢から抜き取り(写真①)、土を落として根を数センチ残し(写真②、③)、新しい培養土に植え付けます(写真④)。9月下旬には芽が動き始めます。

注) なお、2年目の開花は年明け後になります。品種により完全休眠方法が困難なこともあります。



特定非営利活動法人 相模原こもれび (相模原市森づくりパートナーシップ協定締結団体)

相模原市の「みどりの拠点」である木もれびの森。ご紹介する「相模原こもれび」は、これまで20年近くにわたりこの森の保全活動を続けている団体です。昨年には、緑化推進活動への顕著な功績が認められ、「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されました。

皆さんの活動は、下刈り・枯損木伐木・杭打ち・間伐・落ち葉かきなどの年間を通した一連の作業のほか、神奈川県・相模原市および環境団体等が主催する環境保全、自然環境保護の普及啓発イベントへの参加や、将来の担い手となる子どもたちを対象にしたジュニアボランティア育成講座、みどりの少年団、ボーイスカウト、小・中・高校生の総合学習のサポートなど、環境学習支援にも力を注いでいます。また、三菱電機株、大和ハウス工業株など企業のCSR活動への協力も行っています。

「豊かな森を創造する！それが私たちの喜び」と、理事長の高橋さんは言います。

「相模原こもれび」では、先人の残した貴重な財産「木もれびの森」を後世に伝えていくため一緒に活動するメンバーを随時募集しています。自然の中で自然とふれあい、自然から多くのものを学ぶことのできる素晴らしい活動に沢山の人の参加をお待ちしています。



ジュニアボランティア



下草刈り



伐木

ボランティア募集

活動日：毎月 第2土曜日・第3日曜日・第4水曜日
活動時間：午前の部9時～正午 午後の部13時～15時
連絡先：090-4629-4843 高橋さん

相模原市 森づくりパートナーシップ 協定締結団体とは…

相模原市内に残された良好な自然環境を将来にわたって保全・継承していくため、市が維持管理方針を定めた区域について、市とルールを協議して協定を結び、市民の皆さまの手で森づくりの活動を進めていただいている市民活動団体です。現在、市内5カ所・5団体が協定を締結しています。(公財)相模原市まち・みどり公社は、この活動・団体を支援しています。



相模原を象徴する 絶滅危惧種 カワラノギク

相模原市内を流れる相模川には、この地域を象徴する絶滅危惧植物が生育しています。それは、カワラノギクです。地球上で相模川水系のほかは多摩川と鬼怒川の一部地域にしか現存しません。

その名のとおり、河原に生育する植物なのですが、河原であればどこでもよいということではありません。大きな河川の中流域で、人の頭ほどの石がごろごろして、ほかの植物があまり生えていない環境にしか生育しません。私たち



保全地における除草作業



相模川中流域の丸石河原

はこうした河原を「丸石河原」と呼びます。丸石河原は、数年に一度程度の大水による流失と堆積を繰り返すことで成立する、極めて不安定な環境です。その不安定さはほかの植物の生育を抑え、栄養分を供給し、カワラノギクに日照を確保してくれます。

もちろん、大水はカワラノギクもろとも流してしまうことになってしまいますが、流失の規模は時と場所により様々なので、生き残った群落からまた新しい堆積地へと種子が供給され、地域のカワラノギクの群落は維持されてきたのでしょうか。ところが、近年は河川敷の利用や、利水、治水の発達によって川の流れが安定し、カワラノギクの生育適地をどんどん狭めてしまいました。カワラノギクは、1980年代頃から大水のたびに絶滅の淵へと追いやられていったのです。

相模川を管理する神奈川県や、地元で河川環境の保全に取り組む団体、そして相模原市立博物館などが手を組み、カワラノギクの保全活動を行った結果、現在は個体数を回復してきました。これからも地域を象徴するこの絶滅危惧種をしっかりと見守っていききたいと思います。

(文・写真 相模原市立博物館 学芸員 秋山幸也氏)

「絶滅危惧種カワラノギクの観察と相模川ふれあい科学館見学ツアー」

日 時：令和元年11月16日(土) 10時～15時(予定)

会 場：相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら、光明学園相模原高等学校ほか

定 員：20名程度(予定) ※10月中旬から参加者募集予定

お問合せ先：相模原の環境をよくする会事務局(相模原市環境政策課) TEL 042-769-8240

相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告



広告

